

なんば駅周辺まちづくり構想 (たたき台)

『駅前広場を世界に誇れるなんばの顔に！』

平成25年5月

なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会

※まちづくり構想（たたき台）とは？

2011年度、2012年度と協議会での勉強会や講演、視察やワークショップを重ねてきました。

世界に誇る日本有数の繁華街の駅前をどのようなまちにしていきたいか、地域の想いを来年26年度までかけてとりまとめていきます。このまちづくり構想（たたき台）は、その第一弾のたたき台です。

今年度に、地域の皆さまに提案、意見把握を行い、社会実験手法などの具体的な検討も重ね、より内容の濃いまちづくり構想として練り上げていきます。

いま、なんばのまちづくりに着手するわけ

都市間・エリア間競争激化
キタや阿倍野で大型商業施設が開業

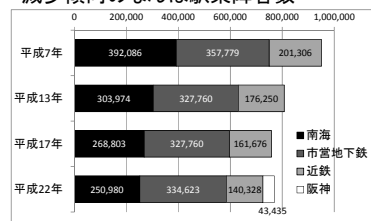
地域商圈縮小、超広域集客の必要性
今のままではお客さんはますます減る、海外からも呼び込む

震災の懸念、ターミナル駅の備え
いざという時も安心して居られるまちが求められる



キタや阿倍野の狭間にあって競争は今後ますます激しさを増す

減少傾向のなんば駅乗降客数



乗降客数は20年前から減っており、今後も減り続ける。

なんばの商圈人口（大阪市内及び南海・近鉄沿線）は、2010年からの20年間で約11%減少する。

（厚労省・人口問題研究所推計）

世界有数の繁華街ミナミの一角にある、
なんばの繁華街ができて100年余、



明治18年、まちはずれの一面のネギ畑に阪堺鉄道難波駅が開業
出展：南海電気鉄道百年史



昭和7年、御堂筋の開業に先駆け高島屋が開業



昭和初期、大阪歌舞伎座、高島屋がそびえたち、商店街が連なる



映画興業の発祥の地、南海会館 提供：東宝株式会社



昭和32年、わが国初の地下街、なんば地下センター開業（現NAMBAnんなん） 提供：大阪地下街株式会社

次の100年繁栄できる新しいまちのカたちをつくる

次の100年、200年の次世代になんばの安心安全と賑わい（繁栄）を引き継ぐために、新しいなんばのまちのカたち（ソフト、ハード）を考える時期にきています。

そこで2年前から、先進地視察、専門家による調査、参加団体による議論を重ねてきました。

次世代に引き継ぎたいのは なんば独特の「歩く楽しさ」

ミナミは、世界有数の規模を持つ、もともと歩いて楽しい繁華街。今もオリジナルな要素にあふれています。

なんば独特の「歩く楽しさ」の要素は・・・

散策するに連れてまちの表情が変化する
個性的なエリアや商店街が連続する



大小様々な規模の店舗が密度高く軒を連ねる
店構えや看板、人が醸したず賑わい



飲食・娯楽からファッションまで多様な業種
老舗からチェーン店まで多彩な業態



御堂筋から路地横丁まで道も多彩で楽しい
網の目のように繋がる歩行者空間



カウンター割烹から粉ものまで
食味の技、食い倒れのまち



歴史ある地下街と地上を自由に回遊
地上と地下が一体に楽しく便利



映画、伝統芸能、お笑い、伝統行事など
エンターテインメントがあるまち

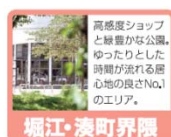
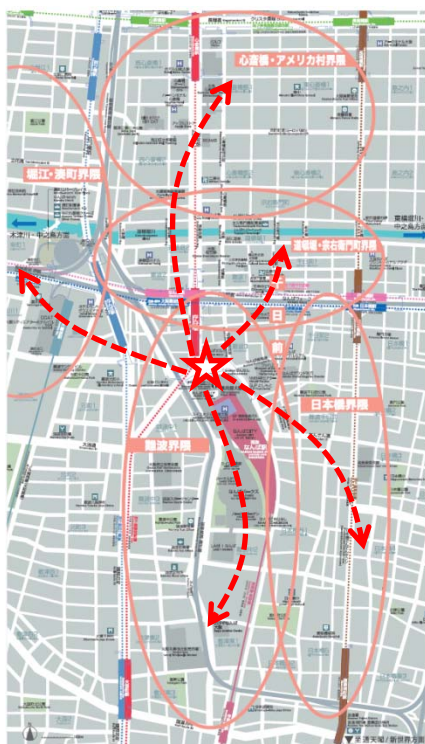


親しみやすく人情豊かなまち
人そのものがこのまちの個性



それは歩いてはじめて体感できる！

個性的なエリアが連続するミナミ、その中心に位置するなんば駅前



世界有数の規模を誇る繁華街「ミナミ」全体の中で
「なんば」の駅前には、

- ・乗降客数約100万人/日の人が交差する交通ターミナル
 - ・道頓堀・千日前・難波・日本橋などのエリアのへそに位置
 - ・一体感、にぎわい感のある貴重な駅前の公共空間である
 - ・選挙演説の名所としてメディアで発信される場所
 - ・登録有形文化財「南海ビル」のシンボル景観
- などの特徴を持ち、国内外に広く「歩く楽しさ」を伝え発信する玄関口としてのポテンシャルが大きいと言えます。

南海難波駅周辺エリア

よく利用するお気に入りの店が集まり、幅広い層の支持を獲得

<アンケート結果>

- 全体の約4割が週1回以上利用
- 南部居住者の8割超が月1回以上利用
- 「お気に入りの店が多い」で高評価

堀江・湊町周辺エリア

電気店、アニメ関連店舗の集積で関西全域から集客

<アンケート結果>

- 男性比率が高い
- 京阪神含め関西全域から集客

道頓堀川周辺エリア

最も大阪らしさを感じられるエリアとして観光客を誘引

<アンケート結果>

- 観光、飲食目的の利用で強み
- 「大阪らしさ」「歴史や文化」で高評価

四つ橋筋周辺エリア

落ち着いて過ごせるエリアとして若い世代の支持を獲得

<アンケート結果>

- 若い世代、特に女性から高い支持
- 「落ち着いて過ごせる」で高評価

なんばの玄関口であり、顔である今の駅前から

周辺のまちの魅力を感じることができるでしょうか。

- ・世界中の人々が関西空港からなんば駅前に着いたとき、ワクワク感じることができたら。
- ・待ち合わせの名所となる、シンボリックな場所であれば。
- ・車道で分断されずに、駅前から周辺へとスムーズに歩くことができれば。
- ・世界的に低い「なんば」の知名度を、この駅前から高めることができたら。



★世界のまちづくりの潮流は・・・

車からヒトへ、人が賑わうまちのカタチへ変革

～シンボリック空間をつくり、賑わいを生み出し、情報が発信されるカタチ
質の高い空間で人が賑わうことで売上増、エリア価値維持、治安維持へつなげる～

1. 公共空間を「車」から「人」のものへ

・道路空間(車)を、人のための空間に変える動きが進んでいます。
それにより賑わいが増し、土地やまちの価値が上がります。



タイムズスクエア(ニューヨーク)



清溪川(ソウル)

2. 自らのまちに愛着を持つしかけ

- ・市民がわがまちに対して自負と愛着を持ち、生き生きと暮らすことへの欲求が高まっています。
- ・市民一人一人が一緒になってまちを作り上げている実感の伴う機会を増やし、メッセージを発信します。



アムステルダム・キャンペーン

3. 「つくる」から「使う」への転換

- ・施設(ハコ)の充実ではなく、今ある空間を上手に運用(マネジメント)する仕組みをつくります。
- ・公共空間の規制緩和等により民間投資を誘致し、収益を地域に再投資する仕組みです。



ブライアントパーク(ニューヨーク)

4. 犯罪が起こりにくい環境づくり

- ・海外においては治安維持が最重要テーマとなる事例が多いです。
- ・壊れた設備や落書きをそのままにすればますます街は荒れていきます。清掃、メンテナンス、見回りなどをきめ細かく行うことが重要です。



★なんば駅前広場を

「歩く楽しさ」を伝える、世界クラスの場所にしよう

なんばエリア全体の回遊魅力向上・ブランド発信のため、広場を改造・活用する
⇒自らのまちを経営し、資産・まちの価値を維持し高めるしくみを創りましょう

人が主役の回遊街なんば、世界中から訪れたいくなるまちの玄関

↓ そのために、駅前の広場は

周辺
魅力 **発信と表現の場！**
まちに繰り出す起点に

なんば駅前を改造して、次のように活用したい。例えば・・・

- 世界中の旅行雑誌に載っていて、旅行に来たらまず訪れる場所。
- ミナミが感じられる、シンボリックな待ち合わせ・記念撮影スポット。
- ここを起点に、ミナミのまちの散策が始まるワクワク感に満ちている。
- 周辺の多様な魅力・地域の情報（ミナミの各地域や、電車でいける世界遺産など）が入手でき、それらの地域のPRコーナーや地元の文化芸能やお祭りをPRする催しも行われていて、駅周辺の魅力が伝わる。
- 世界に注目されるようなプロモーション・イベントにも利用され、テレビなどで発信されることでなんばの知名度が高まる。選挙演説の名所でもある。
- 名物となるカフェや屋台もあり、待ち合わせや憩いの場にも使える。



□ 駅前広場の機能イメージ



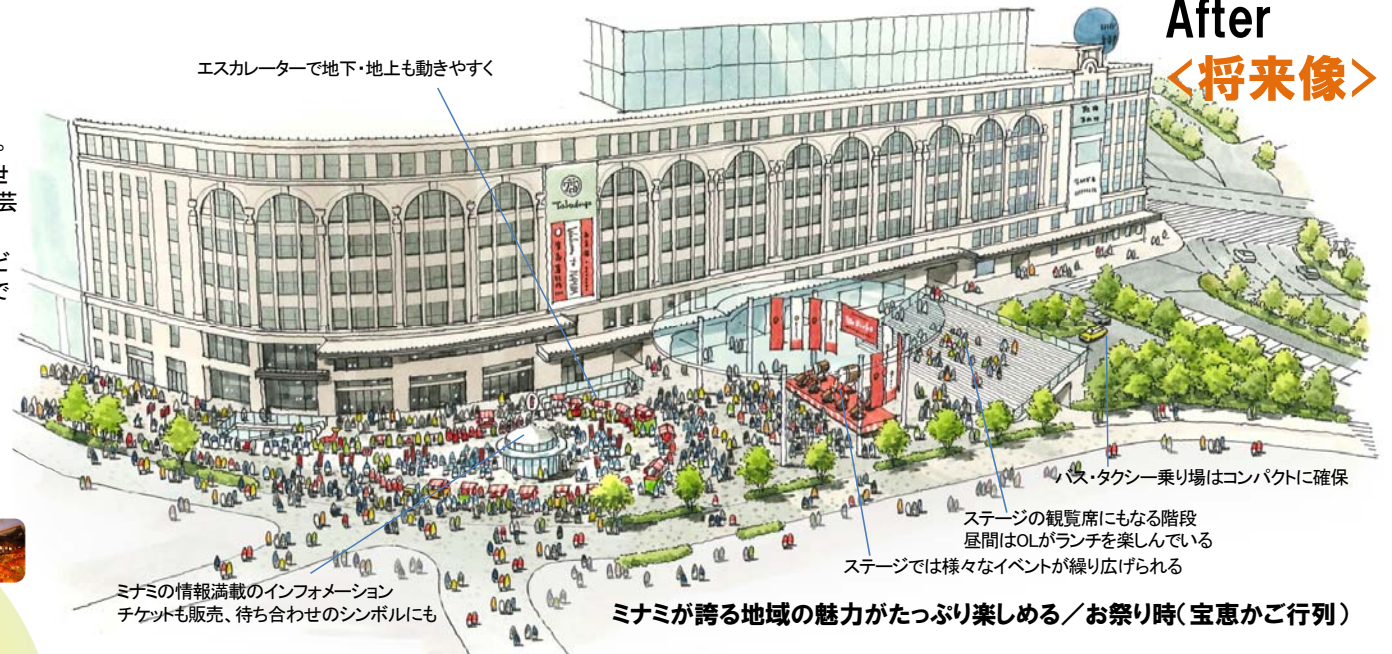
Before

- ・周辺のまちの魅力が伝わってこない
- ・ほとんどが車の空間、親しみがわからない
- ・知名度が低い

こう変える！

After

<将来像>



ミナミの食をアピールする特設屋台が出て楽しめる

多様な人が集う夜の風景(高島屋を背になんばムルイ方面を見る)



宝恵かごの前では記念撮影する外国人観光客も

地域のお祭りの舞台に(戎橋筋商店街を出たところから高島屋方面を見る)

将来像の実現のための5つの課題と取組みの方向性

1. 公共空間(道路)の利用

- ・公共空間(道路)は、みんなの空間であるがゆえに、個人や企業などの活動には制限があり、自由に使用できません。
- ・世界のなんば駅前にふさわしい活用ができるように新しい仕組みをつくる必要があります。



1. 公共空間を地域主体で運営

- 公共空間を地域組織で運営管理
指定管理または包括占有、運営管理
- 自主財源確保のためのしくみづくり
- 利用形態イメージ
 - ①くつろぎスペース ②広告媒体
 - ③店舗貸し(長期) ④イベント貸し(短期)
 ⇒規制緩和、デザイン・美観誘導との調整

2. 多様な使いこなしアイデア主体の創造

- ・ハード整備のみでは、賑わいにつながりません。どうすれば魅力的な使い方や賑わいづくりができるかの視点からハードを作り変える必要があります。
- ・そのためには、その場所をどのように使いこなすのか、アイデアと実行力が問われます。



2. 日常&シンボルイベントの担い手づくり

- 使い方アイデア募集(コンペ)
- 多様な活用のための利用規約の設定
- アーティスト・大道芸人登録制度
- 使う主体のコミュニティづくり
- 使いやすいハードへの改善

3. 安心して過ごせる基礎的環境整備

- ・安全・安心な環境を保つための、美化(駐輪・ゴミ)、防犯(治安維持)、迷惑行為防止、防災(帰宅困難者問題)などの問題は、個別の自助努力のみでは限界があります。
- ・行政とも連携を図り、エリア全体・組織的な共助の取り組みにしていける必要があります。



3. いざという時も安全安心な準備

- 美化、防犯、迷惑行為防止
- ・既存の取組みの継続・強化
- 防災(特に帰宅困難者対応)
府・市危機管理室主導による、エリア全体の連携、防災避難訓練の実施、災害対策についての検討

4. 交通の再編

- ・歩行者優先化に大転換しつつ、広域及び地域交通サービスの両立が求められます。
- ・物流(荷捌き)・タクシー・緊急車両などの処理についての各方面の知恵と協力が必要となります。



4. 歩行者空間化による影響の検証と関係者との調整

- ターミナルとエリアを人の空間でつなぐ(駅前広場+なんさん通り)
※2010年12月3/パターンの交通スタディ結果等も参考に検討
- 地域交通(荷捌き、駐車場、緊急車両等)、広域交通(バス、タクシー、広域交通への配慮等)の再編
- 警察・管理者・地元による検討委員会の立ち上げ
- 将来像実現に向けた社会実験実施・検証⇒ハード反映

5. 継続的ににぎわいを生む仕組みづくり

- ・集客や環境の維持を継続するには、エリア全体で魅力発信・来街促進や公共空間の利活用など、継続的に運営するための人材・組織・財源が必要です。
- ・まず関係者間でビジョンを共有することから始めましょう。



5. エリア全体を担う組織と財源

□推進体制イメージ



行政も動き始めています

■当該エリアの位置づけ

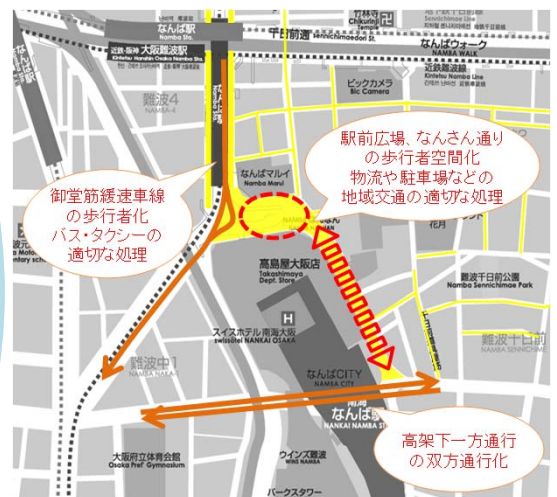
□グランドデザイン・大阪(大阪府、2012.06)

- ・なんば駅前のみどり化
- ・LRTでまちをつなぐ



□都市魅力戦略会議資料(大阪府市統合本部、2012.6)
・「御堂筋フェスティバルモール化」の拠点

□御堂筋空間利用検討会中間報告(大阪市、2011.3)
・にぎわいのあるアミューズメント空間
※2013～社会実験
側道を歩行者や自転車の空間に



□交通の再編イメージ

『安全・安心』の実現

～広場を安心して快適に過ごせる場所に～

ターミナル駅周辺としての安全、日常時の快適な環境づくり、災害時への対応を進めましょう。

1. 迷惑行為防止と駐輪対策

- ・ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会と連携しながら、悪質な客引きなどの迷惑行為をなくす仕組みをつくります。
- ・美化活動や駐輪警備などこれまでの活動を、更に連携をすすめて地域全体で推進していきます。

2. 地域の自助・共助の体制・・・コミュニケーションで築くなんば流・人情の防災を

- ・防災のワークショップで、「個々で取り組むべきこと」、「地域全体で取り組むべきこと」のアイデアを出し合いました。

やるべきこと	
(各社・団体)	(地域全体)
工具を管理・事務所に置く 救助隊を作る	なんば防災隣組を作って行動目標を持っておく（緩やかな） 地域との連携・協力体制の検討
通電後にショートによる火災発生を防ぐための対策 アーケードに太陽光発電を設置	
トイレについてのノウハウ マンホールトイレ トイレの場所の確保	トイレについてのノウハウを共有 空地利用のトイレタンク（南港設置） 被災時に使えるトイレ （マンホールトイレ・貯水槽活用）
通信網の整備（wifi など） バッテリーを使用した非常放送設備 趣味を活かした連絡隊の結成（アマチュア無線・オートバイ）	情報メディア（NHK 放映）大画面など 各団体の安否確認の収集方法の確立 各団体連携をとれる装置を作る 駅・施設間の情報ネットワーク（回線が使えない場合）
各自帰宅経路の確認と状況把握 店舗従業員の教育 街内アナウンス＋指揮者（優先順）を決めておく	連絡網を持っておく（隣のビル同士） 対策本部を作ること決めておく 役員間のメール連絡網をつくる 命令・指示の一元化 （公共伝言板）ミナミ対策本部の設置と普段からその場所の周知 情報が一手に集まる場所 自衛隊などの救援車両の駐車場を決めておく 高層ビルの協力で眺望を使う
府立体育館・河原町会館など貸しスペースの非常時活用 なんばウォークのゾーニング 受入れシミュレーション アーケード放送で来街者避難誘導	
帰宅困難者対策 消防訓練時に来街者の誘導をする 避難場所案内板の設置（商店街内） 高島屋さん、マルイさん、東宝さん等組合員の方で混乱しそうなどころをどう協力するかを考える（地域？） 津波の際、3F以上に避難	行政（中央区＋浪速区）より民間企業への事前協力要請 避難場所誘導看板の設置 避難滞留場所を予め決めておく（ワーカー、従業員、町民、来街者） 一次避難の第二ゾーンの選定（5km 以内） アーケード下・地下街の一時滞留
	夜間安全パトロール
アーケードの上に備蓄倉庫をつくらせてもらう	救援物資を配布する場所・ルールを確立

3. 帰宅困難者対策にむけて

- ・中央区、大阪市危機管理室と連携を具体化します。
- ・なんば駅周辺防災連絡会の設置を検討します。

なんば駅周辺の帰宅困難者数の想定 ⇒
屋外滞留者（買い物等・業務）約4.4万人



「なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会」の紹介

協議会のエリア・構成員



3連合7町会・9商店街・5企業

■振興町会

日本橋連合振興町会、難波中振興町会、難波東振興町会、河原連合振興町会、難波千日前西町会、難波千日前東町会、精華連合振興町会、難波町会、難波三丁目東町会、難波三丁目西町会

■商店街・団体

なんさん通り商店会、日本橋筋商店街振興組合、日本橋筋西通り商店会、なんばCITY会、千日前道具屋筋商店街振興組合、なんなんタウン商店街振興組合、なんば南海通り商店会、戎橋筋商店街振興組合、でんでんタウン協栄会

■企業

南海電気鉄道株式会社、株式会社高島屋、関西不動産株式会社、株式会社丸井、東宝株式会社

協力：ミナミまち育てネットワーク

活動の経緯

1.なんば駅前広場に関連する出来事

年	内容
1995	パールリング構想(大阪ミナミ広域活性化協議会)
2007	なんさん通り活性化基本構想
2008	南海なんば駅前広場環境整備協議会発足
2010	交通量スタディ(なんさん通り歩行者優先化構想に係る交通実態調査)
2011	勉強会スタート(アドバイザー派遣)
2011.3	東日本大震災により帰宅困難者発生
2011.6	なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会設立(その後コンサル派遣)
2012.6	府市統合都市魅力戦略(グレートリセット、広場ホコ天化プラン)グランドデザイン・大阪
2012.7	大阪市都市計画道路(難波片江線)廃止案
2012.12	ミナミまち育てネットワーク「ミナミの未来」
2013.3	なんば駅周辺まちづくり構想(たたき台)



歩行者空間講演会
(2012/7/10)



札幌視察(7/29.30)
(報告会9/27)



広場勉強会・WS
(10/23)



公共空間利活用講演
(11/13)



防災(帰宅困難者)
講演(12/19)



防災WS(2013/2/4)
講演(12/19)

2.当協議会の検討経緯

年	内容
2011	南海なんば駅前周辺の歩行者優先化に向けた調査について テーマ①交通の影響評価 ②歩行者空間化のトレンドについて勉強会を実施
2012	テーマ①パブリック空間の利活用 ②防災 先進事例の講演、ワークショップ、視察、勉強会を開催